

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育 I		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	中居 雅子
授業の概要				
3歳未満児の保育についてその概念と意義を理解し、制度と現状を理解する。また3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。				
授業終了時の到達目標				
近大試験合格				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭・保育士		
時間外に必要な学修				
【準備学習】				
テキストを熟読する。				
回	テーマ	内容		
1~2	乳児保育はなぜ必要か—社会的背景から考える 「子ども・子育て支援新制度」—乳児保育に関わる制度を理解する	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)の作成をする。 P. 2~P. 35 ○4. 乳児保育の社会的意義を説明しなさい。 ○11. 認定こども園とは何か、その機能や導入の社会的背景、4つのタイプ等について説明しなさい。		
3~4	「保育所保育指針」における乳児保育のポイント①② 乳児のこころの発達—身近な人との絆を育む過程	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○10. 保育所保育指針〈平成29年告示〉に示された0.1.2歳児の保育に関する事項について、要点をまとめなさい。 ○9. 母親など養育者との関係と子どもの心の育ちについて考察しなさい。		
5~6	乳児のことばの発達—思いを伝え合う手段を得る過程 保護者との連携を考えよう—乳児をとりまく協力関係をめざして	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○8. ことばの発達過程と保育者の関わりについてまとめなさい。 ○7. 「虐待」とはどのような行為か、また虐待が疑われる場合の保育者の対応について考察しなさい。		
7~8	発達の遅れとむき合う—保護者を支える 離乳食の基礎知識—離乳に向けた食事の進め方を知る	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○1. 発達が気になる子どもの保護者との連携について考察しなさい。 ○3. 離乳を進めるにあたってのポイントを説明しなさい。		
9~10	かみつき・ひっかきへの対応について—トラブルの背景と保護者との連携について 連絡帳の書き方—子どもの育ちを保護者とわかち合う	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○5. かみつきなどのトラブルについて園と家庭の両面からの関わりを考察しなさい。 ○6. 園での保護者との連携路連絡帳のやりとりで大切にしたいことを説明しなさい。		
11~12	乳児保育における安全管理①—乳児期特有の病気と薬の扱いを学ぶ 乳児期にいける安全管理②—乳児を事件・事故から守る方法を知る	単元ごとの学習をし、レポート(ノート)を作成する。 ○2. 乳児保育における安全管理について説明しなさい。		
13~15	近大試験対策	設題のポイントを確認する 連絡帳を書く ワークシートをする		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめて学ぶ乳児保育(同文書院)		総合評価	100.0%	

回	テ ー マ	内 容		

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
乳児保育Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	中居 雅子
授業の概要				
3歳未満児の成長発達と発達課題、保育の内容、保育の実践の方法を学習し、知識と技能の基礎を身につける。				
授業終了時の到達目標				
3歳未満児の成長発達その他の知識を習得し、保育の技能を身につけ、保育できるようになる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭・保育士			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	はじめに 乳幼児の発達 チャイルドヴィジョン	乳児の発達と保育について、新生児 乳幼児の発達(ビデオ鑑賞)…各年齢の発達 チャイルドヴィジョンを作成し子どもの視界を体験する		
3~ 4	調乳、授乳	調乳、授乳の実習 ふれあい遊び		
5~ 6	沐浴、衣服の着脱、おむつ交換	沐浴、衣服の着脱、おむつ交換の実習 手遊びの復習		
7~ 8	絵本の読み聞かせ	絵本の読み聞かせの復習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
はじめて学ぶ乳児保育(同文書院)		総合評価	100.0%	【準備学習】 テキストを熟読する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
子どもの健康と安全		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	永井 智子

授業の概要

科目は、保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助を理解し、関連するガイドラインやデータを踏まえ保育における衛生管理、事故や災害などからの危険回避に努めなければいけないことを理解し、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について具体的に理解する。また、子どもの健康・安全管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画や評価について理解し、多様な子どもたちをより健康に豊かに育て将来に見据えた知識と技能の修得をねらいとする。

授業終了時の到達目標

- ①保育における保健的観点を踏まえ保育環境や援助について説明できる。
- ②関連するガイドライン・近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に説明できる。
- ③子どもの体調不良に対する適切な対応について、具体的に判断できる。
- ④感染症予防についてガイドラインや患児数統計など近年のデータ等踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に説明できる。
- ⑤保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。
- ⑥子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に判断できる。

実務経験有無	実務経験内容
有	<p>看護師実務 : 12年 看護教員実務 : 14年(小児科臨床実習指導有) 短期大学講師(生活学専攻・保育学専攻) 3年 専門学校非常勤講師 : 2年6カ月(医療事務・クラーク学科) 1年(こども保育学科) 以上の実務経験を生かし、2018年の保育士養成課程の改定で「子どもの保健」の知見が「乳児保育」「保育の心理学」にも広げられ、保育のスペシャリストを目指す学生達が、子どもの健康をより深く、将来を見据えた知識と技能を身に付けられるよう指導する。</p>

時間外に必要な学修

回	テーマ	内容
1	保育的観点を踏まえた保育環境及び援助	①子どもの健康と保育環境事例検討 ②子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全の管理事例検討 ③衛生管理(歯磨き・うがい)
2	保育における健康及び安全の管理	①事故防止及び安全対策事例検討 ②災害への備え事例検討 ③危機管理
3	子どもの体調不良等に対する適切な対応Ⅰ	①体調不良や傷害が発生した場合の対応事例検討 ②応急処置事例検討 ・熱中症
4	子どもの体調不良等に対する適切な対応Ⅱ	①救急処置及び救急蘇生法 ・AED・心臓マッサージ・人口呼吸法
5	感染症対策	①感染症の対応及び予防法:正しい手洗いの方法 ②感染症の対応及び予防法:マスク装着の仕方
6	保育における保健的対応	保育における保健的対応の基本的考え方を踏まえ、個別配慮を要する3歳未満児・障害のある(てんかん・発達障害・アレルギー性疾患)の子ども事例検討
7	子どもの健康及び管理の実施体制Ⅰ	①職員間の連携・協働と組織的取り組み ②保育における保健活動の計画及び評価の必要性
8	子どもの健康及び管理の実施体制Ⅱ	①母子保健・地域保健における自治体との連携 ②家庭、専門機関、地域の関係機関等との連携

回	テーマ	内容		
		教科書・教材	評価基準	評価率
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所における感染症対策・アレルギー対応ガイドライン：厚生労働省 ・ 熱中症環境保健マニュアル：環境省・消防庁 ・ 厚生労働省子ども家庭局：対策参考資料(児童虐待防止対策) 応急手当普及ビデオ「緊急時の応急手当と事故防止」	期末試験	100.0%	主体的に意欲をもって授業に参加する 「準備学習」 次回の授業内容を踏まえて資料収集等準備をする

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育・教職実践演習		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
<p>1. 教育課程の全体を通して、保育士・教諭として必要な保育・教育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り把握する。</p> <p>2. 保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育・教育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士・教諭、保育・教育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する。</p> <p>3. 1及び2を踏まえ、自己の課題を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着を図る。</p>				
授業終了時の到達目標				
以下の観点について理解し、習得、形成状況を把握している。				
<p>① 保育士・教諭の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理</p> <p>② 社会性、対人関係能力</p> <p>③ 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携</p> <p>④ 保育や子育て家庭に対する支援の展開</p> <p>自身の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己の課題を把握できている。その上で、目指す保育士像・教諭像や今後に向けて取り組むべきこと及びその具体的な手段や方法等を明確化し、保育・教育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力が定着できている。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭 現場経験を踏まえ、学生が今まで学んできた幼児教育・保育のあり方、知識、技術などを更に掘り下げ総合的に伝えていきたい。		
時間外に必要な学修				
今までの学習や実習を振り返り、自己課題をみつける。				
回	テーマ	内 容		
1~2	学びの振り返り	意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理		
3~4	学びの振り返り	社会性、対人関係能力		
5~6	学びの振り返り	子どもやその家庭の理解 職員間の連携、関係機関との連携		
7	学びの振り返り	保育や子育て家庭に対する支援の展開		
8~9	課題検討	保育・教育に関する課題の検討		
10~11	課題検討	保育・教育に関する課題の検討		
12~13	自己課題	各自の習得した知識・技術等と保育・教育に関する課題等から、自己課題の把握		
14~15	自己課題	自己課題の解決に向けての取り組み		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育・教職実践演習		総合評価	100.0%	【採点内訳】 課題・レポート 発表

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
図画工作Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	岡本 圭祐
授業の概要				
幼児の造形教育に携わる教育者・保育者にとって必要とされる造形に関する表現技術を実習を通じて習得する。				
授業終了時の到達目標				
幼児の造形活動に対して適切で充実した援助と造形教育をおこなえる基本的技術を習得する。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	ディレクター、デザイナーとして21年の経験あり			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	はじめに 課題作品①	近畿大学九州短期大学の課題作成		
3~ 4	課題作品②-1	近畿大学九州短期大学の課題作成		
5~ 6	課題作品②-1	近畿大学九州短期大学の課題作成		
7~ 8	課題作品②-2	近畿大学九州短期大学の課題作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
図画工作Ⅱ(近畿大学九州短期大学)		総合評価	100.0%	【準備学習】 前回の授業内で課題提出ができなかった人は、課題を完成させて提出する。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
音楽表現Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	日野 みどり
授業の概要				
・幼児音楽にたずさわる保育者の、音楽技術の習得や資質の向上を目指す。 ①楽譜の読譜力 ②リズム感 ③合奏 ④楽譜(音楽の決まりごと)を習得する				
授業終了時の到達目標				
1年次の音楽表現(スクーリング)に引き続き保育活動における音楽の役割を理解し、幼児教育に必要な楽器を使っての音楽表現の基礎知識及び指導・援助に関する知識・技術を習得する 音・音楽・楽器・楽譜による表現を主として、様々な角度から音楽表現について考えます。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	教育現場での音楽指導経験有			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	導入	学生個々の演奏力を掌握したうえで本授業の目標を明確にし、到達点を意識する グループ決め		
2~6	合奏の指導方法を考える 保育現場で使う楽器の特徴	楽器の演奏法 年齢・ねらいに応じて打楽器のリズムを各自で作り、子どもの合奏活動への意欲が高まるようリズム言葉を使い工夫する 子どもの興味・意欲・想像力を高める楽譜を製作する 製作した楽譜を使用して合奏指導の練習		
7	リハーサル	発表へ向けてのリハーサル		
8	音楽発表会	それぞれグループに分かれ、年齢にあった曲を創作し演奏発表をする。(それぞれの実践・発表を通じて意見を出し合い、知識・技術・意欲を高めることをねらいとする。)		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント こどものうた 200 続・こどものうた 200		実習・実技評価	100.0%	授業は欠課することなく参加すること。皆と協力し発表会を成功させること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ピアノ実習		こども福祉教育学科/3年	2022/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	日野 みどり
授業の概要				
幼稚園や保育所での子ども達の生活は、音楽を中心として活動が展開されています。				
音楽Ⅰ(1年次)の授業に引き続き幼児教育にたずさわる保育者の、音楽技術(ピアノ)の習得や資質の向上を目指し学習します。				
授業終了時の到達目標				
音が苦しい「音が苦」では子どもが喜びません。ピアノを弾きながら楽しく歌えるよう技術の向上を目指します。				
保育士資格・幼稚園教諭免許の取得				
採用試験受験レベル(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバムレベル)の技術の習得				
採用試験課題曲(弾き歌い)				
卒業演奏会の発表				
実務経験有無		実務経験内容		
有		音楽教室でピアノ講師としての実務経験		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1~6	実習課題曲と採用試験課題曲(弾き歌い) 自由曲(採用試験曲用)	こどものうたより 学生個々の演奏力、音楽経験に即した演習 ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム)の練習・復習 採用試験課題曲(弾き歌い)の練習・暗譜		
7	自由曲(採用試験曲用)試験対策 採用試験課題曲(弾き歌い)試験対策	ピアノ教則本(バイエル・ブルグミュラー・ソナチネアルバム・ソナタアルバム)の実技試験 採用試験課題曲(弾き歌い)の実技試験		
8~13	卒業演奏会への取り組み	卒業演奏でピアノ演奏する曲決め 演奏したい曲の楽譜を探す・譜読み・練習		
14	卒業演奏会への取り組み	リハーサル		
15	卒業演奏会	公開演奏会(試験) 他学生の演奏を鑑賞する。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
近畿大学九州短期大学指定「ピアノ教本」 ブルグミュラー ソナチネアルバム ソナタアルバム こどものうた200 プリント等		実習・実技評価	100.0%	授業までに出された課題曲を練習してこること。 採用試験・卒業演奏会に向けて真剣に取り組むこと。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	45回	5単位(90時間)	必須	日野 みどり
授業の概要				
<p>ピアノの授業に引き続き、幼児教育にあたるための音楽の総合力及び音楽的な保育の能力を追究 リトミックのための伴奏法 オペレッタ 合奏演奏</p> <p>保育現場で役立つ教材研究を行う。 保育園や幼稚園で必要な保育者としての知識や実践的技術の習得を目指す。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>幼児音楽・障害児教育など多くの分野で重要とされている身体表現・リトミック教育の意義、指導上のポイントの習得</p> <p>ピアノ実習 声楽の集大成としてのオペレッタ発表</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		教育現場での音楽指導実務経験有り		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	オペレッタ	オペレッタについて知る オペレッタ グループ決め 教材研究(オリジナルオペレッタ台本作成)		
2~41	オペレッタ練習	オペレッタ準備(製作物・衣装等)とピアノ伴奏・独唱・セリフの練習 オペレッタ通し練習		
42	オペレッタ	オペレッタ準備と練習:ミニコンサートリハーサル それぞれグループに分かれ、演奏発表をする。(それぞれの実践・発表を通じて意見を出し合い、知識・技術・意欲を高めることをねらいとする。)		
43	卒業演奏会(リハーサル)	オペレッタ準備と練習:リハーサル		
44	卒業演奏会(会場準備)	会場作り		
45	卒業演奏会(実技試験)	オペレッタ(ピアノ伴奏は全員が担当) 合奏コンサート		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント		実習・実技評価	100.0%	授業は欠課することなく参加すること。皆と協力し卒業演奏会を成功させること。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育演習Ⅲ		こども福祉教育学科/3年	2022/通年	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位(60時間)	必須	中居 雅子
授業の概要				
保育現場で役立つ教材研究を行う。また、保育園や幼稚園に必要な保育者としての知識や実践的技術の習得をする。				
授業終了時の到達目標				
1. 個人製作(壁画)を完成させる				
2. グループ製作(保育実習室壁画・あなかれほいくえん壁画)を協力して完成させる				
3. あなかれほいくえんとの交流に向けて、練習をし、実践する				
実務経験有無	実務経験内容			
有	幼稚園教諭・保育士			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	実習報告会に向けて	実習の内容の振り返りと報告会の流れと役割分担をする ピアノ、歌などの練習をする		
2~4	実習報告会に向けて準備	指導案やピアノ練習など個人の課題をすすめる		
5~8	実習報告会	福祉教育2年生に実習の報告会をする 流れ通りに模擬保育や伝えたいことを練習する		
9~10	スポーツ大会にむけて(あなかれほいくえんとの交流)	ダンスの内容を決め練習をする		
11~15	ハロウィンパーティに向けて 廃材を使った製作(あなかれほいくえんとの交流にむけて)	ハロウィンの帽子 お店屋さんごっこのグッズ製作		
16~30	実習室展示用作品(共同製作)	作品の製作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
こども環境管理士		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	20回	2単位(40時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
幼児を取り巻く自然環境などについて学び、こども環境管理士検定対策をする。				
授業終了時の到達目標				
幼児を取り巻く自然環境などについて学び、こども環境管理士検定の合格を目指す。				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
過去問題を何度も復習する。				
回	テーマ	内容		
1~3	こども環境管理士検定とは 自然環境に関する基礎知識 自然のしくみ 私たちの生活や社会と自然とのつながり	自然のしくみ 私たちの生活や社会と自然とのつながり 環境問題の原因や現状とその対策 環境問題の解決に向けた社会の動向(法律や条約、時事問題)		
4~20	受験対策	過去問題 解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント、冊子		総合評価	100.0%	

作成者:

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
幼児体育指導者検定		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位(16時間)	必須	検定講師
授業の概要				
幼児体育指導者検定の受検、対策。				
授業終了時の到達目標				
幼児対象の体育指導者検定に合格をする。				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~ 2	理論講習	理論講習		
3~ 4	実技講習	リズム体操、マット運動、縄跳び、跳び箱、ボール		
5	学科試験	学科試験		
6~ 7	実技試験	リズム体操、マット運動、縄跳び、跳び箱		
8	学科試験・実技試験 合格発表	合格発表		
	追試験	不合格者 追試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
幼児体育指導者検定テキスト		実習・実技評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ボランティア実習(保・幼)		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	36回	5単位(72時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
<p>ボランティアの目的や意義について考える。 実習や学校で学んだことをふまえて、ボランティア活動を実践する。 就職活動の一環として各施設の募集要項を確認し、ボランティアを実施する中で検討できるようにする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>ボランティアとして求められる役割を理解し、主体的に行動できる。 ボランティアを通して仕事内容の理解を深め志望する方向性を明確にする。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
有	<p>幼稚園教諭 現場における実習生指導の経験を踏まえ、実習に向けての基礎的知識・技術を伝えていきたい。</p>			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1～36	ボランティア実習	<p>ボランティアに求められる役割を理解し主体的に行動する。 ・保育補助 ・清掃活動</p> <p>実習経験を活かし、自ら考えて行動する。</p> <p>一日の流れを知るとともに、保育者が子どもたちとどのように関わっているか、どのような仕事をしているのか観察したり実際に関わっていく中で理解を深めていく。</p> <p>子どもたちや職員と積極的にコミュニケーションを図る。</p> <p>ボランティアの中で就職に向けて自身の方向性を見つける。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位(8時間)	選択	桑田 由美
授業の概要				
<p>保育実習指導Ⅱでは、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(保育所実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅱに向けた準備を行なう。具体的には保育所の理解、子どもや家庭への支援について理解を深める。さらに、指導計画書の作成や記録など保育の実践力を養うことを目的とするまた、事後の振り返りを行い、課題を明確にする。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、保育について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を習得する。 保育の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
実習で使える教材づくり。				
回	テーマ	内容		
1~4	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育と保護者支援について		
	保育実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価	子どもの状態に応じた適切なかかわり 保育技術を生かした保育実践 具体的な計画と実践		
	保育士の専門性と職業倫理	観察・記録・自己評価に基づく保育の改善		
	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価 自己課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習事前事後指導Ⅲ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	4回	1単位(8時間)	選択	桑田 由美
授業の概要				
<p>保育実習指導では、事前指導として、保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ(施設実習)、またその他の教科で学習した内容を基盤に保育実習Ⅲに向けた準備を行う。具体的には、こどもの最善の利益を基礎とした児童福祉施設における保育と養護の理解、また家庭支援など保育と支援の実践力を養うことを目的とする。また、事後の振り返りを行い、自己の課題を明確化する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育実習の意義と目的を理解し、施設について総合的に学ぶ。 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育・支援の実践力を習得する。 保育・支援の観察、記録及び自己評価を踏まえた保育・支援の改善について実践や事例を通して学ぶ。 保育士の専門性と職業倫理について理解する。 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育・支援に対する課題や認識を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
児童福祉施設、障害者施設の役割について調べる。				
回	テーマ	内容		
1~4	保育実習による総合的な学び	子どもの最善の利益を考慮した保育の具体的理解 子どもの保育(利用者の支援)と保護者支援について		
	保育・支援実践力の育成 計画と観察、記録、自己評価	子ども(利用者)の状態に応じた適切なかかわり 保育・支援技術を生かした保育・支援実践 具体的な計画と実践		
	保育士の専門性と職業倫理	観察・記録・自己評価に基づく保育・支援の改善		
	事後指導における実習の総括と評価	実習の総括と自己評価 自己課題の明確化		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
教育実習②		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位(80時間)	必須	桑田 由美

授業の概要

これまで学習してきた理論を基礎として、教育現場において生きた教育技術を学び、人間性豊かな教師を育成する。

- ・ 幼稚園の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。
- ・ 子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して教育の理解を深める。
- ・ 子どもの教育について総合的に学ぶ。
- ・ 指導計画、実践、記録、省察及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。
- ・ 幼稚園教諭の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。
- ・ 幼稚園教諭としての自己の課題を明確化する。

幼稚園における教育実践について専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的にまた総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。達成するために第2回の実習では、部分・研究保育を主とする実習を行う。

授業終了時の到達目標

幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。
 幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。
 部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。自己課題の明確化。

実務経験有無 実務経験内容

有 幼稚園教諭

時間外に必要な学修

実習先の子どもたちに沿った遊びを考え、どんな流れで保育を提供するのかを考える。

また、保育現場で必要な教材を作る。

回	テーマ	内容
1~40	幼稚園実習 観察実習 参加実習 部分・責任実習 全日実習 研究保育	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識、技術を統合しながら以下の内容を獲得していく。 ・ 幼稚園における1日の生活、活動の流れと生活、活動内容の概要を理解する。 ・ 遊び、生活場面での園児の行動理解 ・ 園児の行動に対する幼稚園教諭の対応 ・ 部分実習、全日実習、研究保育の指導計画の作成及び指導 ・ 幼稚園教諭としての保育技術の習得および態度の養成 ・ 幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解 保育実践やその後の考察の中で、自己課題を明確にする。 幼稚園教諭としての仕事を具体的に学ぶ。 職員間の役割分担とチームワークの必要性を理解する。 安全及び疾病予防への配慮を理解する。 発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当教諭の指導や助言に従い、積極的に教育実習に参加する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
幼稚園養育要領	総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採

回	テ ー マ	内 容	
			有慮したうえで採点を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習 I (施設)		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位(80時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
<p>児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解するとともに、観察や子ども・利用児(者)との関わりを通して子ども・利用児(者)への理解を深める。既習の教科目の内容を踏まえ、子ども・利用児(者)の保育及び保護者への支援について総合的に理解する。また、保育(援助)の計画・観察・記録及び自己評価等についてや、保育士の業務内容、職業倫理について具体的に理解する。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>①役割や機能を具体的に理解する。 ②子ども(利用者)への理解を深める。 ③子どもの保育・利用者の支援・保護者への支援について総合的に理解する。 ④保育(支援)の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ⑤保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。 ⑥自分が立てた実習課題を達成する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
教材研究及び作成				
回	テーマ	内容		
1~40	施設の役割と機能 子ども・利用者理解 施設における子ども・利用者の生活と環境 計画と記録 専門職としての保育士の役割と倫理 観察実習 参加実習	施設における子ども・利用者の生活と保育士の援助や関わり 施設の役割 子ども・利用者の観察とその記録、個々の状態に応じた援助やかかわり 計画に基づく活動や援助、心身の状態に応じた生活と対応、活動と環境 子ども・利用者を取り巻く社会や家族の問題 健康管理、安全対策の理解 支援計画の理解と活用、業務内容、役割分担と連携 実習指導者の指導や助言に従い、積極的に参加する。 1日を振り返り考察し、学びを深める。		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については、実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮した上で採点を行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅱ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位(80時間)	選択	桑田 由美
授業の概要				
<p>保育実習Ⅰでの経験とその後の学習をふまえて、自己課題をもち保育所の保育を実際に経験する。この実践をとおして、生きた保育技術を学び、人間性豊かな保育士を育成する。また、保育所の保育士に求められる資質・能力・技術を修得し、さらに自己課題を明確化していく。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。</p> <p>子どもの観察やかかわりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。</p> <p>保育実習Ⅰを踏まえて子どもの保育及び保護者支援について総合的に学ぶ。</p> <p>保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価等について実際に取り組み、理解を深める。</p> <p>保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。</p> <p>保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
教材作成				
回	テーマ	内 容		
1~40	<p>保育所の役割や機能の具体的展開 観察に基づく保育理解 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会との連携 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 保育士の業務と職業倫理 自己の課題の明確化</p> <p>観察実習 参加実習 部分・責任実習 研究保育</p>	<p>養護と教育が一体となって行われる保育 保育所の社会的役割と責任 子どもの心身の状態や活動の観察 保育士等の動きや実践の観察 保育所の生活の流れや展開の把握 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 地域社会との連携 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の理解 作成した指導計画に基づく保育実践と評価 多様な保育の展開と保育士の業務 多様な保育の展開と保育士の職業倫理</p> <p>発達に適した保育の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
保育所保育指針		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
保育実習Ⅲ		こども福祉教育学科/3年	2022/前期	実習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	40回	2単位(80時間)	選択	桑田 由美
授業の概要				
<p>これまで学習してきた理論を基礎として、福祉施設において生きた養護を学び、人間性豊かな保育士を育成する。保育所以外の児童福祉施設などの役割や機能について実践を通して理解を深める。また、これらの実践の中で家庭と地域の役割などに気づき、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解を深める。</p> <p>家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉および社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援の知識、技術、判断力を養う。</p> <p>保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結び付けて理解する。</p> <p>保育士としての自己の課題を明確化する。</p>				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1~40	施設実習 観察実習 参加実習	<p>児童福祉施設等の役割と機能 施設における支援の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受容、共感の態度 ・個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 ・個別支援計画の作成と実践 ・子どもの家族への支援と対応 ・多様な専門職との連携 ・地域社会との連携 <p>保育士の多様な業務と職業倫理 保育士としての自己課題の明確化</p> <p>発達に適した保育・支援の指導計画を立案 一日を振り返り考察し、学びを深める 担当指導者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加する。</p>		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		総合評価	100.0%	【採点内訳】 評価については実習指導者の評価と担当教員の評価を考慮したうえで採点を行う。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ワープロ検定		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	10回	1単位(20時間)	必須	甲斐 滋美
授業の概要				
<p>パソコン操作の初級として、キーボードの入力テクニックを習得</p> <p>ワープロソフトを使用する際のレポートやビジネス文書などの作成に必要な、日本語処理を解説していきます。</p>				
授業終了時の到達目標				
<p>パソコン操作初級の学生を対象に、ワープロソフトを使用して日本語文書処理の基本を習得します。</p> <p>最終的には、日本情報処理検定協会 日本語ワープロ検定2級レベルの機能をマスターします。</p>				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
パソコンを持たない学科ですが、自宅にある場合はタイピングを行いましょう。				
回	テーマ	内容		
1~ 2	キーボード操作・Wordの基本操作	ホームポジションからタッチタイピング ファイルの保存		
3~ 4	文字入力の基本、応用 文字書式	漢字変換および、キーボード操作 ショートカットキー等を使って、要領よく変換する		
5~ 6	ビジネス文書の作成 段落書式	正しいビジネス文書の形式 それに伴う、段落書式の設定		
7~ 8	表の作成	罫線機能を使った表の作成		
9~ 10	図形を使った地図の作成	図形を組み合わせて地図の作成		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日本語ワープロ検定試験 日本語ワープロ模擬問題集(1級~3級)		総合評価	100.0%	情報技術の修得には、継続が必須です。復習として、授業で出された課題を、毎回授業後、繰り返し行います。

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
PC実習 (文書作成)		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	演習
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	30回	4単位 (60時間)	必須	甲斐 滋美
授業の概要				
Wordの基本操作から活用を目指す。				
具体的には、与えられたデータを有効に活用する方法を考え、Wordのどの機能を使って操作をすればいいのかが理解できる力を身につける。				
授業終了時の到達目標				
将来に渡ってコンピュータを活用できる人材を育成することを大きな目標とし、この授業においてはパソコンの基本操作を習得し更に応用できる力を身につけることを目標とする。				
詳細な力としては以下となる。				
文書作成ソフトの概念が理解できる				
文書に見合う設定を行うことができる				
データとしてグラフィックや写真の加工ができる				
まとめとして、Microsoft Office Specialist Wordの検定受験合格				
Wordのまとめとして、応用的な操作を踏まえて実務的な書類が作成できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		<ul style="list-style-type: none"> ・ 0Aインストラクターとして15年の経験 ・ 各種試験対策、実務向けオフィス活用の指導 		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	Windowsの基本 Wordの基礎	動機づけ Wordの基本的な操作・MOS検定の概要の確認 Word文書の作成 (基本)		
2~3	文書の作成と管理	文書を作成する 文書内の移動 文書の書式設定 文書のオプションと表示をカスタマイズする 文書を印刷する、保存する		
4	第1章まとめ	単元テスト		
5~6	文字・段落・セクションの書式設定	文字列や段落を挿入する 文字列や段落の書式を設定する 文字列や段落を並べ替える、グループ化する		
7	第2章まとめ	単元テスト		
8~9	表やリストの作成	表を作成する 表を変更する リストを作成する、変更する		
10	第3章まとめ	単元テスト		
11~12	参考資料の作成と管理	参照のための情報や記号を操作する、管理する 標準の参考資料を作成する、管理する		

回	テ ー マ	内 容		
13	第4章まとめ	単元テスト		
14~ 15	グラフィック要素の挿入と書式設定	グラフィック要素を挿入する グラフィック要素を書式設定する SmartArtを挿入する、書式設定する		
16	第5章まとめ	単元テスト		
17~ 26	MOS検定模擬試験	MOS検定模擬テスト実施		
27~ 30	MOS検定を活かしての実務応用問題	実務の課題を与えて作成 課題の提出		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
日経PB社 MOS攻略問題集 Excel2016 FOM出版社 よくわかるマスター MOSWord2016対策テキスト		総合評価	100.0%	継続的な内容であるため、なるべく欠席しないこと

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
漢字検定		こども福祉教育学科/3年	2022/通年	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	近藤 美沙子
授業の概要				
本科目は、漢字検定の対策を行い、就職後も役立つ漢字の知識の習得をねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
漢字検定に合格する				
実務経験有無	実務経験内容			
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1~15	漢字検定対策 第1回~13回 過去問題	漢字検定対策 第1回~13回 過去問題		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「漢検分野別問題集」公益財団法人 日本漢字能力検定協会		総合評価	100.0%	解けなかった問題は辞書で調べ、漢字の意味を理解しながら学習しましょう。
「漢検過去問題集」公益財団法人 日本漢字能力検定協会				

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
社会人基礎講座Ⅳ		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	7回	2単位(14時間)	必須	桑田 由美
授業の概要				
本科目は、将来のありたい姿を考え、社会人になることに自覚を持ち、社会人として必要なビジネスマナーの習得をねらいとする。				
授業終了時の到達目標				
①将来のありたい姿を明確にする				
②ビジネスマナーの必要性を理解する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		幼稚園教諭		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内容		
1	はじめに ビジネスマナー	①授業内容を知る ②社会人の心得		
2	ビジネスマナー	①コミュニケーションの基本 ②話し方・聞き方の基本		
3	ビジネスマナー	①電話対応の基本 ②敬語の基本		
4	ビジネスマナー	①来客対応の基本 ②冠婚葬祭のマナー		
5	ビジネスマナー	①保育士のマナー ②園内のマナー		
6	ビジネスマナー	①保育者の基本 ②子ども・保護者との関わり方		
7	ビジネスマナー	豊かな保育者になるために		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
プリント配布		課題・レポート	100.0%	

科目名		学科/学年	年度/時期	授業形態
ビジネス文書 I		こども福祉教育学科/3年	2022/後期	講義
授業時間	回数	単位数(時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位(30時間)	必須	近藤 美沙子
授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス実務に役立つ文書作成技能について、知識と技能の基本を身につけ、普通の文書を正しく理解し、作成できるようにする。 ・ビジネス文書実務検定3級合格レベルの知識を身につける。 				
授業終了時の到達目標				
<ul style="list-style-type: none"> ・実務技能検定協会主催 ビジネス文書技能検定試験 3級 合格 (上司の指示により、普通の無事ネス文書を作成することができるレベル)				
実務経験有無		実務経験内容		
時間外に必要な学修				
回	テーマ	内 容		
1	ビジネス文書検定の必要性を知る	・検定目的・運営・評価の説明、ビジネス文書の必要性		
2	用字1	片仮名文を漢字交じりの文に直す 句点、読点の打ち方・改行の仕方		
3	用字2	同音意義 慣用句の手紙用語		
4	用語 書式	社内文書と社外文書の違い 構成とレイアウト		
5~ 15	検定対策	過去問題1~11		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネス文書検定3級受験ガイド(早稲田教育出版) ・ビジネス文書検定実問題集3級(早稲田教育出版) 		総合評価	100.0%	【準備学習】 過去問題を何度も復習する。